

展覧会概要

戦後の復興からまもない 1950 年代の東京。ようやく人々の暮らしの中に、家具や道具のデザインへの意識が少しずつ広がりはじめる時期に、「国際デザインコミッティー」(現・日本デザインコミッティー)は、戦後日本のデザイン運動の先駆けとして、国際交流やデザインの啓蒙を目的に創立されました。

きっかけは、1953 年にイタリアから届いた一通の招待状。この「第 10 回ミラノ・トリエンナーレ」への参加要請に応えるべく集ったのが、建築家の丹下健三や吉阪隆正、清家清、デザイナーの剣持勇、柳宗理、渡辺力、亀倉雄策、評論家の勝見勝、浜口隆一、瀧口修造、写真家の石元泰博、そして画家の岡本太郎でした。

顧問には、坂倉準三、前川國男、シャルロット・ペリアンが名を連ね、時代をリードする多彩なジャンルの人々が顔を揃えました。

No.1



「グッドデザインコーナー」のための選定会風景、1955 年頃

左から、吉阪隆正、鹿子木健日子、剣持勇、渡辺力、瀧口修造、岡本太郎、柳宗理

写真提供：日本デザインコミッティー

No.2



1955 年当時の松屋「グッドデザインセクション」売場風景

写真提供：日本デザインコミッティー

「ミラノ・トリエンナーレ」への参加は、次の第 11 回展(1957 年)に実現しますが、むしろ彼らの活動の軸となっていくのは、東京銀座の百貨店「松屋」の一面に設けられた売場に置かれた商品選定と、併設の「デザインギャラリー」や催事場で行われた展覧会を通じたデザインの啓蒙でした。通産省の G マーク「グッドデザイン商品選定制度」(1957 年)に先んじて、百貨店という身近な舞台で始められたグッドデザイン運動は、ひろく人々の間に定着し、「日本デザインコミッティー」と改称された現在もなお、活発な活動が展開されています。

本展では、「デザインコミッティー」の活動と創立メンバーらの交流に焦点を当てるとともに、そこから生まれたコラボレーションにも注目します。柳宗理《バタフライズツール》や森正洋《G 型しょうゆさし》といった時代を代表するプロダクトとの繋がり、そして旧東京都庁舎(1957 年)、香川県庁舎(1958 年)、世界デザイン会議(1960 年)、東京オリンピック(1964 年)での協同。彼らが闊達な交流のなかで切り拓いた仕事の広がり、デザイン・建築・美術など多領域を軽々と横断していく自由さは、転換期となる今の時代を突破する糸口になるかもしれません。


お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐藤(玲)、出口 広報担当：森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

開催概要

- 展覧会名 「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展
 The Origin of Japanese Design Movement after WWII: The Tracks of Design Committee
 会 場 川崎市岡本太郎美術館 企画展示室
 会 期 2021 年 10 月 23 日(土)～2022 年 1 月 16 日(日)
 開館時間 9:30～17:00(入館は 16:30 まで)
 休 館 日 月曜日(1 月 10 日を除く)、11 月 4 日(木)、11 月 24 日(水)、
 12 月 29 日(水)～1 月 3 日(月)、1 月 11 日(火)
 観 覧 料 一般 1,000 円(800 円)、高・大学生・65 歳以上 800 円(640 円)
 中学生以下 無料／()内は 20 名以上の団体料金
 主 催 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
 協 賛 ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、天童木工、堀内カラー
 特別協力 日本デザインコミッティー
 協 力 松屋、多摩美術大学アートアーカイヴセンター
 助 成 芸術文化振興基金 
 同時開催 常設展「生誕 110 周年 ベラボーな岡本太郎」 会期 10 月 15 日(金)～2022 年 1 月 16 日(日)

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

No.3



柳宗理 《バタフライツール》(初期型)
1956 年、柳工業デザイン研究会蔵

No.4



森正洋 《G 型しょうゆさし》1958 年、
有限会社デザインモリコネクション蔵

No.5



丹下健三計画研究室(制作:神谷宏治+日大川
岸研究室)《香川県庁舎(1958 年)模型》
2013 年、香川県立ミュージアム蔵

No.6



来日の際に岡本太郎を訪れたヴァルター・グロピウス、1954 年
左から岡本太郎、グロピウス、一人おいて剣持勇、柳宗理、渡辺力

No.7



岡本太郎《建設》1956 年、川崎市岡本太郎美術館蔵

みどころ

- 通産省の「G マーク」制度(1957 年)にさきがけて始められた、知られざる、戦後日本のデザイン運動の原点ともいべき活動を紐解くもの。
- 日本のミッドセンチュリーを代表するプロダクトデザインと、「デザインコミッティー」との関わりをエピソードとともにご紹介。
- 個性ゆたかな創立メンバーの顔ぶれとその交流に注目し、そこから派生した同時代のデザインや建築の動きのなかで、「デザインコミッティー」が果たした「サロン」としての役割にも注目。
- コミッティーのメンバーが企画を行う「デザインギャラリー」の展示のうち、第 1 回「わたしの好きなデザイン」展(1964 年)と、イサム・ノグチを取り上げた第 4 回「あかり」展(1964 年)、石元泰博の写真展となった第 24 回「桂」展(1966 年)に注目し、部分的な再現展示も行う。

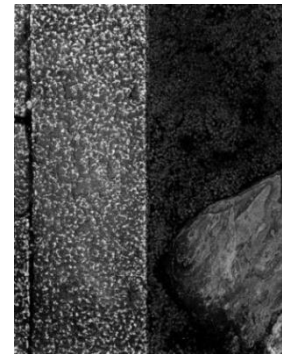
※企画展の写真・動画撮影不可

No.8



シャルロット・ペリアンとコミッティーメンバーら
左から一人おいて渡辺力、岡本太郎、吉阪隆正、ペリアン、坂倉準三、柳宗理

No.9



©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
石元泰博《桂離宮 御輿寄前庭 延段と飛石》1953,54 年、高知県立美術館蔵

展示構成(予定)

- 1 章 デザインコミッティー創立 ー前夜と交流
- 2 章 国際交流とデザインの普及 ーミラノ・トリエンナーレとグッドデザインコーナー
- 3 章 サロンとしてのデザインコミッティー
- 4 章 デザインギャラリーの展開

主な出品作品 (予定)

絵画、写真、プロダクトデザイン、家具、建築模型、図面、資料ほか 約 220 点

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。 <https://www.taromuseum.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大対策のため、開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>

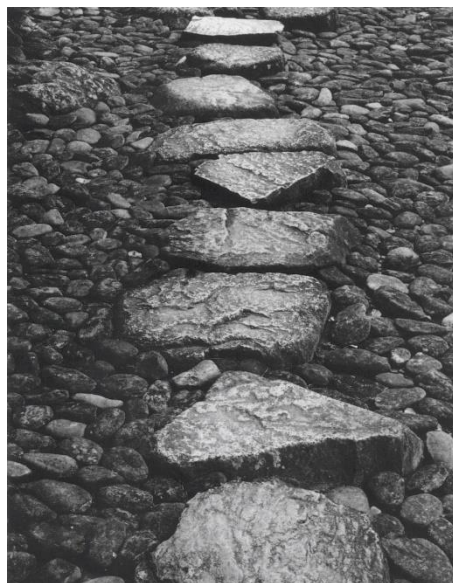
「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展

No.10



「第 11 回ミラノ・トリエンナーレ」会場風景、1957 年、
国立近現代建築資料館蔵

No.11



©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
石元泰博《柱離宮 洲浜の飛石》1953 年、高知県立美術館蔵

No.12



坂倉準三建築研究所(担当:長大作)
《低座椅子》1960 年、株式会社天童木工蔵

No.13



渡辺力《ヒモイス》1952 年、
株式会社メトロポリタンギャラリー蔵

No.14



岡本太郎《坐ることを拒否する椅子》1963 年、
川崎市岡本太郎美術館蔵

画像のご使用の際には、必ずキャプション・クレジットをご明記くださいますよう、お願いいたします。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:佐藤(玲)、出口 広報担当:森近(pr@taromuseum.jp)
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内
TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966